

済生会型地域包括ケアシステム構築に関する仕様書

I. 目的

鹿児島県済生会として、鹿児島病院の経営改革と地域福祉センターの機能拡大を図る。

2025年を目途に、重度の要介護状態となっても住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・健康づくり・予防・医療・介護・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していく市町村の取り組みの一端を担い、済生会では、済生会の理念に基づき、生活困窮者や社会的ニーズの充足がなされていない人々を優先とする全人的保健医療福祉サービス提供体制を充実強化するとともに、ノーマライゼーションの観点から地域の自助・互助および地域づくりの推進に貢献するための推進拠点を構築する。

II. 委託の目的

鹿児島県が進めている医療構想により、現在 28,431 ある病床を 2030 年までに段階的に 19,944 床まで削減される状況や、2018 年介護療養病床廃止、療養病棟入院基本料 2(25 対 1) 廃止、医療区分の変更、DPC の調整係数廃止、10 年以内に医療区分 1 の 7 割を在宅に戻す政策など大改革が見込まれている。

このような中、鹿児島県済生会として、鹿児島病院の経営改革と地域福祉センターの障害者・困窮者への機能の拡大を前提として、医療と介護をシームレスに提供できる体制を構築するとともに、地域生活を支援する済生会型包括ケアシステムの拠点づくりを推進し、将来にわたって地域住民に医療・福祉（介護）サービスを一体的・効率的に提供できる方策を策定するための調査等を行う。

III. 現状調査の主な内容

1. 法人全体の収支と事業別・セグメント別の収支

- ・5ヶ年の収支計算書の分析：法人全体、病院（診療科別）、介護（事業所別）。
- ・科目別分析：人件費、材料費、委託費、本支部費、他
- ・経営指標：各項目別基準、済生会グループの基準、他
- ・職種別生産性：ドクター、ナース、セラピスト、居宅、介護職、他

2. ドミナントのマーケティング・マッピングと SWOT 分析

- ・ドミナントの設定基準：地区別患者数、地区別介護利用者数、他
- ・2060 年までの需要予測：医療の需要予測、介護の需要予測、他
- ・競合：医療機関、社会福祉法人、民間事業者、他
- ・鹿児島県の病床再編の方向性
- ・鹿児島市の介護福祉の方向性

3. 鹿児島病院と地域福祉センターで構成される地域包括ケアセンターの生き残りの条件

- ・医療に関わる政策：鹿児島県の地域医療構想、医療計画、他
- ・介護に関わる政策：市町村の取り組み、介護保険事業計画、他

- ・福祉に関わる政策：障害者福祉計画、他

4.現在の病院と鹿児島地域センターに新規事業を付加することのメリットと可能性

- ・回復期リハ、地域包括ケア病棟などの可能性
- ・在宅医療、在宅介護、包括報酬サービス、保険外サービス、集合住宅居住系サービス
- ・訪問看護サービスをセグメント化して、がん末期、疾病ごと、小児障害などの可能性
- ・障害者事業の可能性
- ・新型小規模多機能の可能性
- ・組合方式による社会福祉法人の合併と済生会のポジションについて

IV. 現状分析並びに収支改善

- ・現状分析（ガバナンス・経営力・事業力・組織力・サービス品質・人材育成）
- ・収支改善（赤字事業の黒字化・指定事業所の収支改善）